

【灯】 「桜さくらサクラ」
<2023/4/1 大分合同新聞掲載>

春の訪れとともに卒業式のニュースが流れ、新年度を迎えれば入社式に入学式。この時期に人事異動という組織も多く、今年もさまざまな場所で出会いと別れがあったことと思います。新しい門出を迎えられた皆さまに心よりお慶^{よろこ}びを申し上げます。

温暖化の影響からか、桜の開花時期が早まっているように感じます。私が小さい頃は、桜といえば入学式のイメージでしたが、最近は、卒業式に桜が満開ということも珍しくありません。できるだけ長く咲いて、どちらも祝ってほしいと思うのは親の身勝手でしょうか。

国を代表する花だからか、「さくら」という名前が付けられたものには品格を感じます。幼い頃とても憧れ、結局乗れずに終わったのが寝台特急さくら号。名前を引き継いだ新幹線さくら号と乗り心地を比べたら…言わぬが花でしょうか。

時代の流れからか、「サクラサク」という言葉も見かけなくなりました。電報どころか校内掲示も行わず、合格発表はウェブサイトのみという学校も増えています。自分は日々デジタル化の恩恵を受けているのを棚に上げて、季節の風物詩がなくなるのは寂しいね、などと口走ってしまうのは、年を取った証拠でしょうか。

身勝手だからか年を取ったからか、花見に出かけて、口ではきれいだねえと褒めそやしつつも、早くグラスを傾けたいのが見え見えなのは私だけでしょうか。
(日本銀行大分支店長)